

# 地域情報

## はばたく苗穂「苗穂再開発物語」 ～苗穂駅周辺まちづくり協議会～

苗穂駅周辺では、JR線による南北分断の解消を目指そうと、14年前からまちづくり活動が活発に行われてきた。現在は、「苗穂駅周辺まちづくり協議会」を中心に、情報誌の配布、イベントの開催など身近なまちづくりや再開発の勉強会などの幅広い活動が行われており、協議会と札幌市が協働でワークショップや懇談会を開催している。札幌市はこれらの活動を受け、北ガス、サッポロビール園、苗穂駅を含む苗穂駅周辺地域を対象に、民間再開発等の具体化に向けた「まちづくり計画」を本年度中に策定する予定である。

この市民と行政、企業のパートナーシップ型まちづくりの取り組みを中心で支えている苗穂駅周辺まちづくり協議会の事務局長である宮口健太郎さんに、そのねらいと活動、今後の抱負などについてお話をうかがった。

### 苗穂駅北口開設要望が始まり

JR北海道苗穂工場に勤務し、苗穂に住んでいた宮口健太郎さんが、この苗穂駅周辺地区のまちづくり活動を始めたのは、'90年の苗穂駅周辺地区の地域住民による苗穂駅北口の開設要望がきっかけだったといいます。「JRの線路を挟んだ南北の分断は都市構造の欠陥」と考えていたからです。

'91年5月にはJR苗穂駅北口再開発事業促進期成会結成準備会を立ち上げ、翌年、住民アンケートをそえて市長に陳情、'93年10月にはJR苗穂駅北側地区再開発協議会を発足させました。これが現在活動している苗穂駅周辺まちづくり協議会の源流となります。

'95年10月には、協議会の原動力となる「苗穂駅再開発物語」第1回フォーラムを開催し、450名もの聴衆を集めました。フォーラムは節目、節目に開催され、本年8月には13回目を数え、十分にその役目を果たしています。

協議会の参加者は、地元住民を代表する鉄東地区連合協議会、苗穂連合町内会、北光地区町内会連合会、東区商店街連合協議会と地元企業です。

「当初から、地元企業には、会員になって協力してもらうことと、営業はしないことをあらかじめ約束してもらっており、このことが後々まで、この再開発協議会活動の大きな

力になり、継続できた要因になっています」と宮口さんは振り返ります。

'93～'95年には、JR苗穂工場の移転を前提とした「JR苗穂工場跡地を活用したドーム型施設を中心とする街づくり」が検討されています。このドーム構想はJRの高架化を採用した構想で、'94年11月に当時の桂札幌市長に陳情しました。しかし、'96年1月、2000年ワールドカップ開催をにらんだ札幌ドームの早期整備が必須となり、現在の札幌ドームの位置に建設が決まり、JR苗穂工場跡地への立地は空振りとなりました。したがって、その後の構想は、JRの高架化を前提としないものとして検討が続けられました。

### 南北一体的なまちづくり－苗穂駅周辺まちづくり協議会

その間、'95年から活動していたJR苗穂駅南側地区再開発協議会設立準備会は、翌年5月にはJR苗穂駅南側地区再開発協議会となり、南北おのおのがそれぞれに活動を行っていましたが、JR苗穂工場用地の再開発の方向性、南北一体の交通や豊平川との関係など、一体的にまちづくりを検討する必要性が指摘され、'99年12月に連絡調整機関として、苗穂駅周辺まちづくり連絡協議会が発足しました。連絡協議会は、'01年4月には南北両再

開発協議会と一本化し、地域住民、企業等によって構成される「苗穂駅周辺まちづくり協議会」となりました。協議会では札幌市と協働してまちづくり会議やワークショップを開催、また、その時々が必要に応じ、イベント企画部会や企業部会など、実践活動部会を置いて活動しています。

### まちづくりガイドライン

'00年からは、札幌市と共催で、「まちづくりガイドライン」を作成するために、住民の意見を集約するワークショップと学識経験者や専門家からなる検討委員会を精力的に開催。その結果は苗穂駅周辺まちづくりニュース「はばたく苗穂」に逐次掲載、地域住民とのコミュニケーションを図っています。

これら5回のまちづくりワークショップと6回の検討委員会、また、地域住民を対象としたアンケート調査などを基に、札幌市は、①JR苗穂駅の移転、②駅舎の橋上化、③南北を結ぶ歩行者用自由通路の設置、④公共施設整備と連携した駅周辺の再開発について記載した「JR苗穂駅周辺地区まちづくりガイドライン」をまとめ、'02年3月に発表しました。

### 苗穂まちづくり計画の策定へ

苗穂駅周辺地区のまちづくりに方向性を与えたガイドラインの策定後、'03年3月、協議会はそれまでの活動成果をまとめ、「まちづくりプラン」として、「人にやさしく、子供に夢を与え、高齢者が安心して暮らせる緑豊かなまちづくり」を目標とし、「地域まるごと博物館としての『苗穂ミュージアム』」を提案しました。また、'03年度には3回のワークショップを開催し、地域の課題から具体的な将来像を展望、民間開発される「サッポロビール札幌工場跡地への提案」、「札幌ビール園とファクトリーを結ぶ道路についての提案」を行い、'04年3月の第3回ワークショップで再確認しました。なお、このワークショップに先立って行われたアンケートでは、回収率75.3%、3,619回答と住民の関心の高さが示されています。

札幌市の「まちづくり計画」作成過程まで進んだ'04年度の10月の第1回ワークショップでは、'03年度にサッポロビール工場跡地

開発について提案・確認された、①敷地内を自由に散策できる空間に！②いろいろ活用できる広場を！③周辺に対して開かれた空間に！に対して、サッポロビール札幌工場跡地の一部をイトーヨーカドーの商業施設として整備し、敷地内に歩行空間をつくる、サッポロビール園や北海道遺産の「札幌苗穂地区の工場・記念館群」の代表的建物であるビール博物館は赤レンガを生かして改修、日本ハムファイターズの施設はそのまま営業、交流広場を整備する、イトーヨーカドーの商業施設は11月に着工、'05年末にオープンするとの説明を受けます。

### まちづくりフォーラム「苗穂再開発物語」

「まちづくり計画」策定過程の最終年度である本年8月の「苗穂まちづくりの実現に向けて」と題して開催された第13回「まちづくりフォーラム『苗穂再開発物語』」には、地域住民・民間・行政などから約300名が参加し、大きなホールがまちづくりの熱気に包まれたといえます。

パネルトーク「新たなまちづくりの胎動」では、地域住民・民間・行政それぞれの立場からの提言がありました。

#### 石原永久氏 サッポロビール北海道本社開発担当副部長

サッポロビール園、ファイターズ練習場、サッポロビール博物館、そして新しくオープンするイトーヨーカドーを核とした商業施設が、わが社の苗穂のまちづくり支援の4つの柱となります。敷地内には広場も整備しますので、ぜひ皆さんのパフォーマンスを見せてください。

#### 久井稔彦氏 東区苗穂連合町内会副会長

東区の苗穂地区はとてもコミュニティー活動がさかんな地区です。地域の未来像を語り合うことから、まちの美化、花壇づくりまでさまざまな活動をしています。そして、そのすべてが住民主体の取り組みであり、それを大きな誇りとしています。

#### 大島 脩氏 中央区苗穂連合町内会会長

われわれの町内会では、路面電車の再生が、まちの活性化の起爆剤となるとして、電車の復活に向けてさまざまな取り組みを行っています。全国的にも環境や人にやさしい乗り物として再注目されている路面電車。地域の意

気込みには大変なものがあります。

**伊田行孝氏** 北海道遺産構想推進協議会事務局次長

地域の「苗穂地区工場・記念館群」が北海道遺産のひとつに選ばれました。北海道遺産をめぐってはさまざまなツアーが生まれ、好評を博しており、経済効果も現れています。地域の皆さんにもぜひ、北海道遺産の活用方法を検討していただきたいと思います。

**大石正人氏** JR北海道総合企画本部地域計画部長

JR北海道は地区に工場を抱え、たくさんの社員やOBも苗穂に住んでいます。今後札幌市の「まちづくり計画」に協力していくとともに、一地元企業として再開発についても住民の皆様と一緒に考えながら進めていきます。

**小松正明氏** 北海道開発局開発監理部開発調整課企画官

全国都市再生モデル調査事業を手がけています。春まで助役として出向していた掛川市が誇る偉人二宮尊徳の教え子が札幌村開拓の祖・大友亀太郎ということに不思議な縁を感じます。ここに集まったたくさんの人々のパワーに、地域の志の高さを見ました。

**小澤邦憲氏** 札幌市まちづくり局都市計画部長

永年にわたって地元の方々とお話を進めてきました。平成13年度に策定した「ガイドライン」に続き、今年度末には、苗穂の「まちづくり計画」をまとめる予定です。札幌市の元気ビジョンのモデルともなる地区ですので、ともに歩んでいきましょう。

## 南北を繋ぐ交流の道の実現に向けて

苗穂のまちづくりの実実施計画である「まちづくり計画」は、'05年度中には策定される予定です。

10数年に渡ってこの苗穂地区のまちづくりに関わってきた宮口さんは、「ようやく実施にこぎつけました。サッポロビール工場跡地には今、イトーヨーカドーの商業施設がオープン間際で、苗穂駅南口には温泉施設が出来上がっています。しかし、苗穂駅の南北を繋ぐ交流の道はまだです。苗穂駅の移転と橋上化による自由通路が実現して、やっと当初の思いがかなえられる。再開発事業が10年くらいかかるのは当たり前で、まちづくりに終りはないように思います」といいます。

また、ここまで活動できたのは、「苗穂のまちを形成している多くの人が働くJR苗穂工場を何とかしたいということと、都会では全国でも珍しい住民が参画したまちづくりに情熱を傾けられたことです」と気負いなく、淡々と語ってくれました。

これまでの長期にわたる地域住民が中心となった活動が実り、苗穂駅の南北をつなぐ自由通路で、両地域が文字通り交流・一体化し、元気で、夢のある、緑豊かな、地域まるごと博物館のまちが、一日も早く実現することを期待したい。



JR苗穂駅周辺地区  
まちづくりガイドライン  
(’02年3月) から